

命を大切にすることについて考えさせられる詩

この詩はとても有名なので、ご存じの方も多と思います。

宮越由貴奈さんは、5歳のとき神経芽細胞腫というガンと診断され11歳で亡くなりました。

彼女は長い間、入退院を繰り返しながらたくさんの手術やきつい治療を受けました。

由貴奈さんがこの詩を書いた頃は、いじめや自殺のニュースが多く流れていたそうです。その時期に、一

「命」

宮越由貴奈
小四

命はとても大切だ
人間が生きるための電池みたいだ
でも電池はいつか切れる
命もいつかはなくなる
電池はすぐにとりかえられるけど
命はそう簡単にはとりかえられない
何年も何年も
月日がたつてやっと
神様から与えられるものだ
命がないと人間は生きられない
でも
「命なんかいらぬない。」
と言った
命をむだにする人もいる
まだたくさんの命がつかえるのに
そんな人を見ると悲しくなる
命は休むことなく働いているのに
だから 私は命が疲れたと言うまで
せいっぱい生きよう

緒に入院していた友達も何人か亡くなりました。生きたくても生きられない友達がいたのです。由貴奈さんは、院内学級で理科の電池の勉強をしたばかりでした。

その時、書いた詩が「命」です。由貴奈さんはこの詩を書いた4か月後に亡くなりました。しかし、「命」の詩に書いてあるとおり最期まで精一杯生き抜きました。

由貴奈さんは書くことがそんなに得意でなかったそうです。でも、私たちに、命の大切さについて考えさせる、すばらしい詩を残してくれました。

由貴奈さんの母親は、この「命」という詩は11年という短いけれど凝縮した人生の中で得た勉強の成果ではないかと語っていらっしゃいます。

由貴奈さんは死ぬかもしれないという恐怖と戦いながら、最期まで学び続けたのです。

大畑小学校ホームページへのアクセス急増

下は大畑小学校のホームページのトップページです。



4月末までの合計アクセス数は**3,600**ほどだったのですが、6月28日8:00時点でのアクセス数は、なんと**40,473**です。

こんなにたくさんの方に本校ホームページにアクセスしていただき、大変ありがたく思っています。

アクセス急増の理由として考えられるのは、子どもたちの情報を、写真や動画で紹介できるようになったことと情報の更新を頻繁に行っていることです。

本校の井口教頭と渕上教諭が運営の中心となり、大畑小学校の日々の様子を発信しています。

地域の皆様にも、ぜひ大畑小学校のホームページ

を開いていただき、様々な活動で活躍している子どもたちの様子をご覧いただけたら幸いです。

インターネットで「大畑小学校ホームページ」と検索いただくか、右のQRコードを読みとっていただければ簡単にアクセスできます。

私たちは、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの成長を促し、支えていけたらすばらしいことだと考えています。

